

古代生駒の暮らし伝える 50点 壺分遺跡群

令和2年11月15日

壺分町東自治会

令和2年2月2日に開催された壺分町東自治会日曜セミナーで「壺分町遺跡群と暗越奈良開街道」の講演題を、実際に発掘に携わった橿原考古学研究所の先生よりお話を頂きました。その時実際に出土された食器などが生駒市山崎町の「生駒ふるさとミュージアム」展示されています。

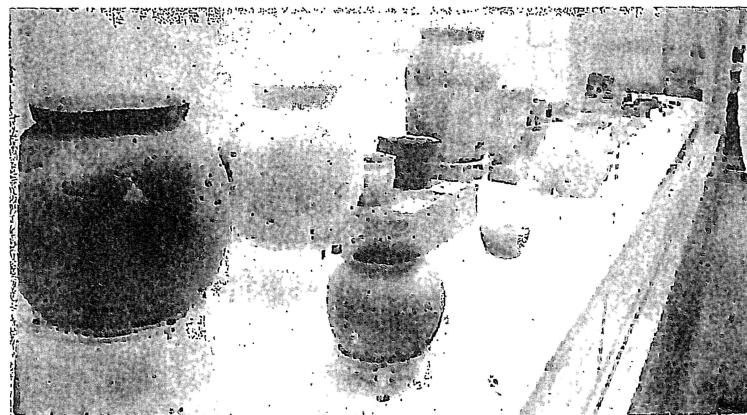
この機会に是非ご鑑賞いただき、弥生時代の暮らしぶりを垣間見る絶好の機会かと思えます。

場所 生駒ふるさとミュージアム（生駒市山崎町）
 期間 令和2年11月29日まで（月曜休館 祝日開館）
 入館料 一般200円 中学生以下無料
 問い合わせ 同館 0743-71-7751

以下朝日新聞 2020年10月28日朝刊掲載記事を紹介します。

生駒ふるさとミュージアムで、同市南部で出土した古墳時代中期（5世紀）の食器などを紹介する「古代生駒の古道—壺分遺跡群から見る生駒—」が開かれている。約20年前、県立橿原考古学研究所が調査で発掘して保管していたものを中心に50点あまりが並ぶ。同館によると、壺分遺跡群の出土品をまとめた数で「里帰り」展示したのは初めて。同市内には古墳時代の遺跡はほとんど見つかっていないことから、当時の住民の暮らしぶりが分かる貴重な遺物という。

壺分地区は奈良と大阪を結ぶ現在の国道308号や第二阪奈道路に近く、古くから交通の要衝だ。付近には、市内で1基しか確認されていない前方後円墳「竹林寺古墳」（4世紀後半）などがある。展示物には主に、堅穴式建物跡約20基分や大きな溝が見つかった遺跡の出土品。須恵器の高坏、土師器の蒸し器のほか、鉢や壺など、日常使われていた食器類が多い。形は模様から、朝鮮半島から伝わったとみられる土器も含まれており、山内紀嗣館長「渡来系の人々がムラをつくっていたのではないかとみている。



数々の出土品が並ぶ会場＝生駒市山崎町

2020.11